

2021年3月期 第2四半期決算 連結業績概要

2020年11月9日

太陽誘電株式会社
経営企画本部長
佐瀬 克也

決算サマリー

2021年3月期 第2四半期 業績概要

- 売上高797億円(前四半期比32%増)、営業利益112億円(同41%増)で増収増益。
- スマートフォンの生産に向けた需要増加や、想定以上の自動車の生産回復などにより、売上高、営業利益ともに8月時点の予想を大きく上回った。
- 売上高は四半期ベースで過去最高を更新。

2021年3月期 業績予想

- 8月に発表した通期業績予想を上方修正。
- 売上高は2,840億円(前期比1%増)、営業利益は340億円(同9%減)を予想。

2021年3月期 第2四半期 業績概要

売上高は第1四半期に対して32%増の797億円、
営業利益は同41%増の112億円で、増収増益を達成。

スマートフォンの旺盛な生産や想定を上回る自動車の生産回復など
幅広い市場で需要が拡大。

売上高、営業利益ともに8月時点の予想を大きく上回った。

売上高797億円は、四半期ベースで過去最高を更新。

2021年3月期 業績予想

8月に発表した通期業績予想を上方修正。

売上高は前期から微増で過去最高となる2,840億円を、
営業利益は同9%減の340億円を目指す。

新型コロナウイルス感染症の影響

当社の事業活動への影響は、ほぼ解消（11月9日時点）

販売

顧客企業の生産動向、各機器の最終需要などを注視。

調達

影響なし。一部サプライヤからの調達に支障はあったが、商流変更や在庫活用などで対応。

物流

一部で物流リードタイムの長期化や物流費の上昇などの影響が継続。代替便や代替ルートによる輸送で対応。

生産

6月以降、国内外全ての生産拠点が通常稼働。
3～5月の稼働制限で、第1四半期の売上高が70億円減少と推定。

国名	会社名	主な生産品目	稼働状況		
			5月12日時点	8月7日時点	11月9日時点
フィリピン	TAIYO YUDEN (PHILIPPINES)	インダクタ	稼働中 (制約あり)	通常稼働中 (6月～)	通常稼働中
マレーシア	TAIYO YUDEN (SARAWAK)	積層セラミック コンデンサ	稼働中 (制約あり)	通常稼働中 (5月中旬～)	通常稼働中
日本、韓国、 中国など	上記以外	—	通常稼働中	通常稼働中	通常稼働中

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

3

現時点で、当社の事業活動に対する新型コロナウイルス感染症の影響は、ほぼ解消されている。

販売面では、顧客の生産活動は概ね正常な状態に戻っており、現時点で新型コロナウイルス感染症の影響は見られない。
引き続き、各社の生産動向や主要機器の最終需要などの情報を収集する。

調達活動には、大きな問題は発生していない。
一時期、調達に支障が生じた部材もあったが、商流変更や在庫活用などで対応。

物流については、以前より航空便が増える一方で貨物の流通量も増加しているため、一部で物流リードタイムの長期化や物流費の上昇などの影響が続いている。
影響を最小化するため、代替便や代替ルートの利用などの対策を講じる。

生産においては、6月以降、国内外全ての工場が通常通り生産活動を続けている。
3～5月にフィリピンとマレーシアの子会社で稼働が制限されたことによって、第1四半期には売上高が70億円減少したと推定するが、第2四半期以降、このような影響は発生していない。

第2四半期 連結業績概要(前四半期比)

百万円	2021年3月期 第1四半期		2021年3月期 第2四半期		増減	
売上高	60,493	100.0%	79,728	100.0%	19,235	31.8%
営業利益	7,923	13.1%	11,203	14.1%	3,280	41.4%
経常利益	7,371	12.2%	10,812	13.6%	3,440	46.7%
親会社株主に 帰属する当期純利益	4,541	7.5%	6,900	8.7%	2,358	51.9%
対米ドル期中平均レート	107.61円		106.82円		0.79円円高	
為替変動による影響額	売上高 △3億円、営業利益 △4億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	2,988		3,219		230	7.7%
設備投資額	17,886		10,112		△7,774	△43.5%
減価償却費	6,599		7,277		677	10.3%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

4

2021年3月期第2四半期の業績は

売上高797億円、営業利益112億円、経常利益108億円。

特別損失として、新型コロナウイルス感染症関連損失を8億円計上。

物流費の上昇や感染拡大対策などの一過性費用がここに含まれる。

また、事業構造改善費用4億円を計上。

インダクタを生産していた中国・天津の子会社を9月に閉鎖したことに伴う費用。

旧来アイテムは撤退し、継続商品は他拠点へ生産を集約した。

生産規模が小さい拠点だったため、第3四半期以降の業績への影響は軽微。

この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は69億円。

期中平均の為替レートは1米ドル106.82円、第1四半期に対して0.79円円高。

これによる影響額は売上高に対してマイナス3億円、

営業利益に対してマイナス4億円。

フィリピンや韓国などのアジア通貨高により、営業利益への影響がやや大きく出た。

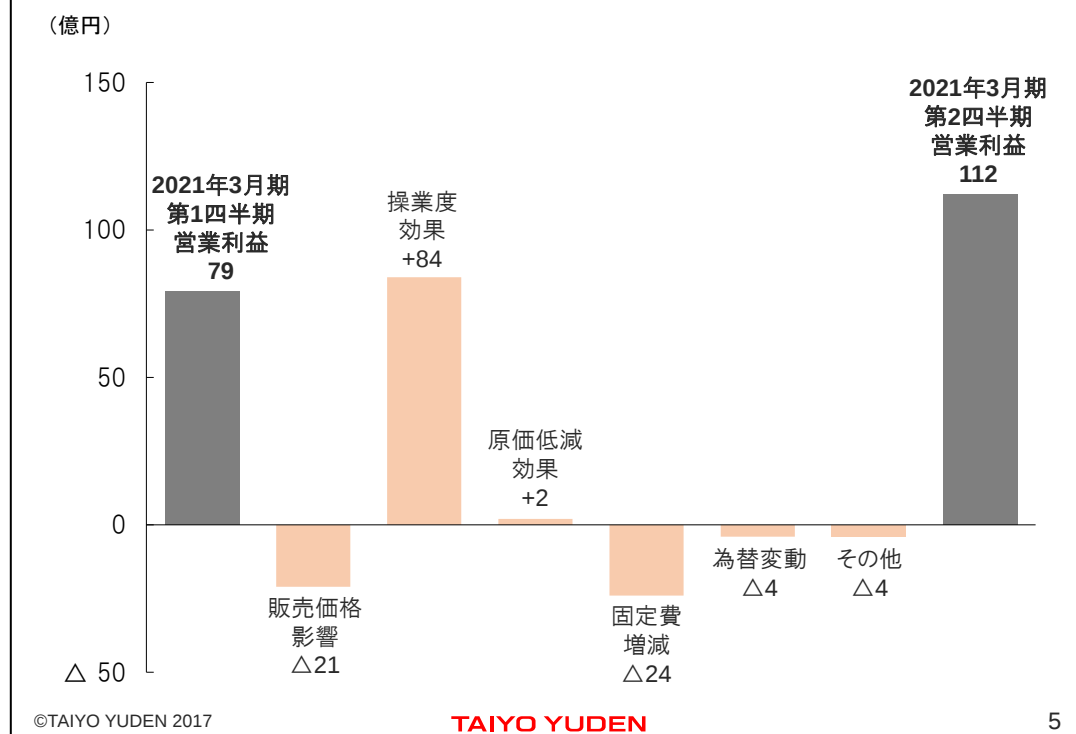
研究開発費は、前四半期からやや増加して32億円。

設備投資額は、生産子会社の新潟太陽誘電で新棟を建設した費用が

計上された第1四半期から78億円減少し、101億円。

減価償却費は、同7億円増の73億円。

第2四半期 営業利益増減要因(前四半期比)



第2四半期の営業利益の増益要因として、操業度効果84億円。
 操業度効果とは、販売数量増減やミックス改善、棚卸資産の増減など。
 需要回復による販売数量の大幅な増加が、増益に寄与した。
 なお、9月末の全社の棚卸資産は、為替影響など利益に影響がない部分を除いた
 実態ベースで6月末より43億円減少。
 想定を上回る販売増により、予定していた棚卸資産を積み増すことができなかった。

このほか、原価低減効果2億円が増益要因。

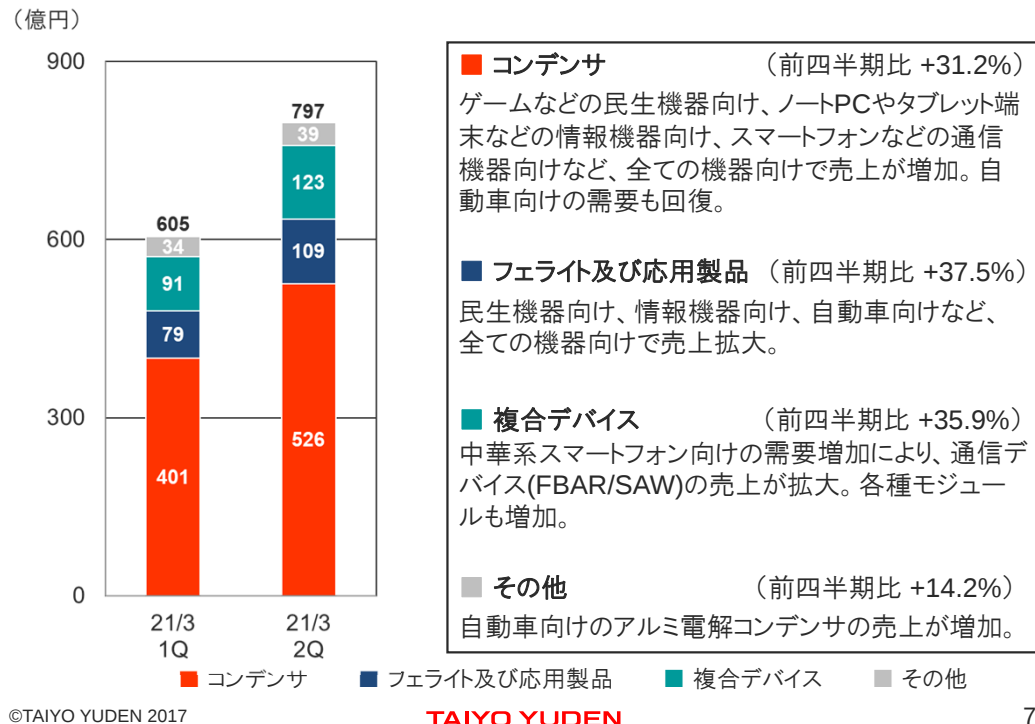
減益要因となったのは、販売価格の影響21億円、
 固定費の増加24億円、円高による為替影響4億円、その他4億円。

この結果、営業利益は第1四半期から33億円増加し、112億円。

第2四半期 製品別売上高(前四半期比)

百万円	2021年3月期 第1四半期		2021年3月期 第2四半期		増減	
コンデンサ	40,075	66.2%	52,596	66.0%	12,520	31.2%
フェライト及び応用製品	7,928	13.1%	10,903	13.7%	2,974	37.5%
複合デバイス	9,075	15.0%	12,330	15.5%	3,254	35.9%
その他	3,413	5.6%	3,899	4.9%	485	14.2%
合計	60,493	100.0%	79,728	100.0%	19,235	31.8%

第2四半期 製品別売上高(前四半期比)



7

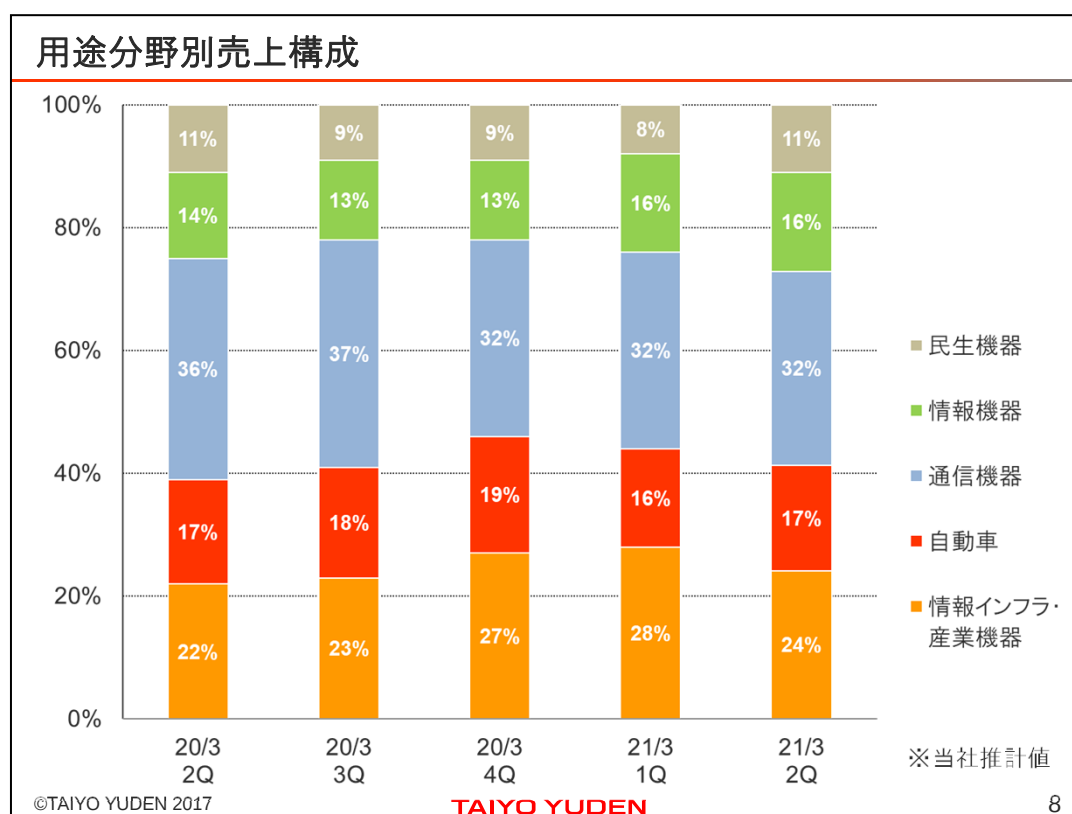
全ての製品において、第1四半期の売上を大きく上回った。

コンデンサの売上高は、前四半期比31%増の526億円。
ゲームなどの民生機器向け、ノートPCやタブレット端末などの情報機器向け、スマートフォンなどの通信機器向けが好調、自動車向けの需要も回復して全ての機器向けで売上が増加した。

フェライト及び応用製品の売上高は、前四半期比38%増の109億円。
こちらも、全ての機器向けで売上が大きく拡大した。

複合デバイスの売上高は、前四半期比36%増の123億円。
特に中華系スマートフォンメーカーからの引き合いが強く、通信デバイス(FBAR/SAW)の売上が増加。
なお、複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は、65-70%。

その他の売上高は、前四半期比14%増の39億円。
自動車市場の回復により、アルミ電解コンデンサの売上が増加した。



用途分野別売上構成比は、基地局通信装置やサーバーなどを含む情報インフラ・産業機器向けが24%、自動車向けが17%、通信機器向けが32%、パソコンやタブレット端末などの情報機器向けが16%、ゲームやスマートウォッチなどを含む民生機器向けが11%。

全ての分野で第1四半期より売上が増加したが、特に増加率が大きかった民生機器と自動車の構成比が上昇した。

上期 連結業績概要(前年同期比)

百万円	2020年3月期 上期		2021年3月期 上期		増減	
売上高	141,908	100.0%	140,222	100.0%	△1,685	△1.2%
営業利益	20,298	14.3%	19,126	13.6%	△1,171	△5.8%
経常利益	19,176	13.5%	18,183	13.0%	△992	△5.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益	15,332	10.8%	11,442	8.2%	△3,890	△25.4%
対米ドル期中平均レート	109.26円		107.22円		2.04円円高	
為替変動による影響額	売上高 △23億円、営業利益 △9億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	6,425		6,207		△217	△3.4%
設備投資額	17,350		27,998		10,648	61.4%
減価償却費	12,898		13,877		978	7.6%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

9

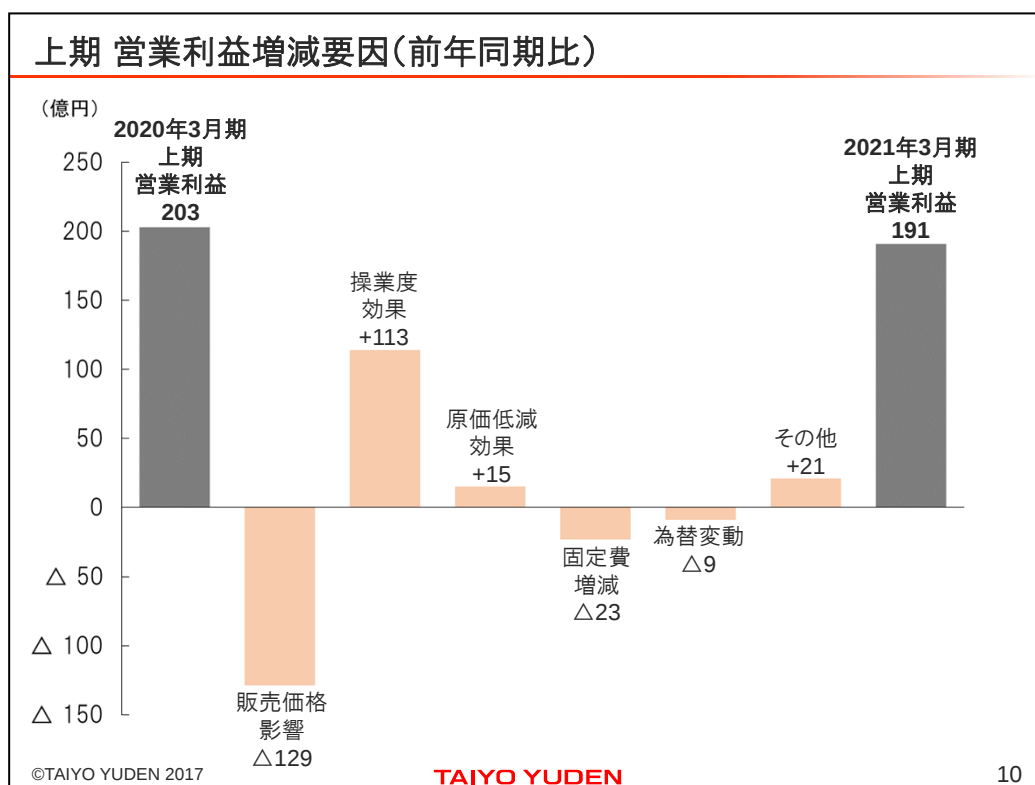
2021年3月期上期の売上高は1,402億円。

第1四半期は新型コロナウイルス感染症の影響で売上が落ち込んだが、
第2四半期には想定を上回る需要の強さが見られたことから、
前年同期に対して微減にとどめることができた。

営業利益は191億円、前年同期比6%減。

経常利益は182億円、親会社株主に帰属する当期純利益は114億円。

いずれも、8月時点に発表した業績予想を大きく上回った。



上期 営業利益の増益要因は、
操業度効果113億円、原価低減効果15億円、その他21億円。

一方、減益要因として、販売価格の影響129億円、
固定費の増加23億円、円高による為替影響9億円。

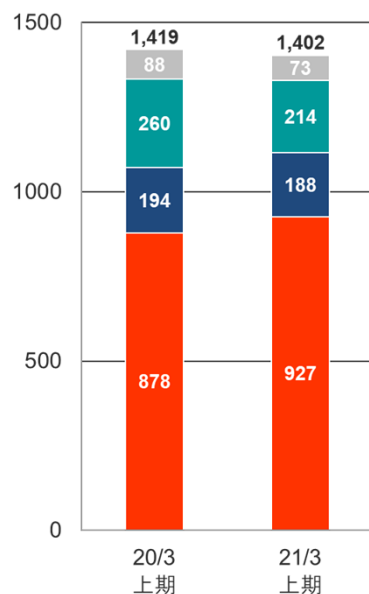
この結果、上期の営業利益は前年同期比12億円減の191億円。

上期 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2020年3月期 上期		2021年3月期 上期		増減	
コンデンサ	87,812	61.9%	92,672	66.1%	4,860	5.5%
フェライト及び応用製品	19,376	13.7%	18,831	13.4%	△544	△2.8%
複合デバイス	25,960	18.3%	21,406	15.3%	△4,554	△17.5%
その他	8,759	6.2%	7,312	5.2%	△1,446	△16.5%
合計	141,908	100.0%	140,222	100.0%	△1,685	△1.2%

上期 製品別売上高(前年同期比)

(億円)



- **コンデンサ** (前年同期比 +5.5%)
 民生機器向け、情報機器向け、自動車向け、情報インフラ・産業機器向けが増加。通信機器向けは減少。
- **フェライト及び応用製品** (前年同期比 △2.8%)
 通信機器向けが増加したものの、民生機器向けや自動車向けなどが減少。
- **複合デバイス** (前年同期比 △17.5%)
 通信デバイス(FBAR/SAW)、各種モジュールが減少。
- **その他** (前年同期比 △16.5%)

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

12

コンデンサは、スマートフォンなどの通信機器向けが減少した一方で、民生機器向け、情報機器向け、自動車向け、サーバーなどの情報インフラ・産業機器向けが増加し、前年同期比6%の増収。

フェライト及び応用製品は、通信機器向けが増加したものの、民生機器向けと自動車向けが減少し、前年同期比3%の減収。

複合デバイスは、通信デバイス(FBAR/SAW)、各種モジュールともに減少、前年同期比18%の減収。

2021年3月期 連結業績予想

2021年3月期 連結業績予想(前回予想比)

百万円	2021年3月期 前回予想			2021年3月期 今回予想		
	上期	下期	通期	上期実績	下期	通期
売上高	130,000	135,000	265,000	140,222	143,778	284,000
営業利益	15,000	12,000	27,000	19,126	14,874	34,000
経常利益	14,000	12,000	26,000	18,183	14,817	33,000
親会社株主に 帰属する当期純利益	8,500	8,500	17,000	11,442	10,558	22,000
対米ドル期中平均レート	107.31円	107.00円	107.15円	107.22円	105.00円	106.11円
研究開発費	—	—	13,000	6,207	6,793	13,000
設備投資額	—	—	50,000	27,998	22,002	50,000
減価償却費	—	—	30,000	13,877	16,123	30,000

・ 8月に発表した業績予想を上方修正。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

14

2021年3月期の通期業績予想は、
上期の実績と今後の需要予測等に基づき、8月に発表したものから上方修正。

売上高は2,840億円、営業利益340億円、経常利益330億円、
親会社株主に帰属する当期純利益は220億円と予想。

第3四半期以降の為替レートは、1米ドル105円の前提。
研究開発活動やコンデンサを中心とした能力拡大は計画通り進めており、
研究開発費、設備投資額、減価償却費の予想は変更なし。

2021年3月期 連結業績予想(前期比)

百万円	2020年3月期		2021年3月期 予想		増減	
売上高	282,329	100.0%	284,000	100.0%	1,671	0.6%
営業利益	37,176	13.2%	34,000	12.0%	△3,176	△8.5%
経常利益	35,165	12.5%	33,000	11.6%	△2,165	△6.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益	18,022	6.4%	22,000	7.7%	3,978	22.1%
対米ドル期中平均レート	109.06円		106.11円		2.95円円高	
研究開発費	12,921		13,000		79	0.6%
設備投資額	39,365		50,000		10,635	27.0%
減価償却費	27,022		30,000		2,978	11.0%

・ 8月に発表した業績予想を上方修正。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

15

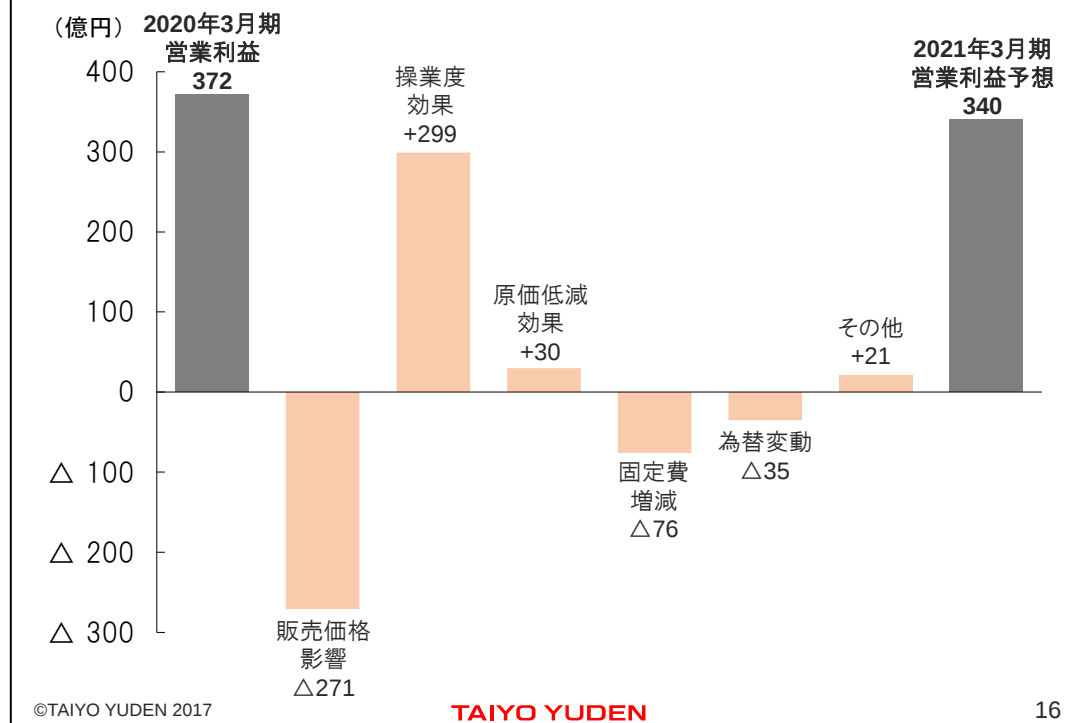
前期比では、通期の売上高と親会社株主に帰属する当期純利益が増加するが、営業利益と経常利益は減少する見込み。

今後も、新型コロナウイルス感染症や各国の通商問題などの影響を注視して変化に対応していく。

このような事業環境の影響を受けて一時的な停滞があったとしても、中期的な電子部品の需要は、5Gの普及や自動車の電装化などに伴って拡大が続くという見方に変化はない。

需要増に対応するため、最先端商品、高信頼性商品の生産・販売拡大に注力していく。

2021年3月期 営業利益予想増減要因



今期の増益要因として、操業度効果が299億円。

販売数量の増加に加え、期末に向けて棚卸資産を積み上げる予定。

3月末の棚卸資産は、前期末に対して80億円程度増やす計画。

拡大する需要への対応と不測の事態による供給リスク対策のため、適切な在庫を保有して事業を運営していく。

このほか、原価低減効果30億円とその他21億円が増益要因。

減益要因は、販売価格の影響271億円、固定費の増加76億円、為替変動による影響35億円。

その結果、営業利益は前期に対して32億円減少し、340億円となる見込み。

2021年3月期 製品別売上高予想(前回予想比)

百万円	2021年3月期 前回予想			2021年3月期 今回予想		
	上期	下期	通期	上期実績	下期	通期
コンデンサ	87,500	91,500	179,000	92,672	95,828	188,500
フェライト 及び応用製品	17,500	19,000	36,500	18,831	19,169	38,000
複合デバイス	18,000	17,500	35,500	21,406	21,094	42,500
その他	7,000	7,000	14,000	7,312	7,688	15,000
合計	130,000	135,000	265,000	140,222	143,778	284,000

通期の製品別売上高予想は、コンデンサが1,885億円、フェライト及び応用製品は380億円、複合デバイスは425億円、その他は150億円で、いずれも前回予想から上方修正。

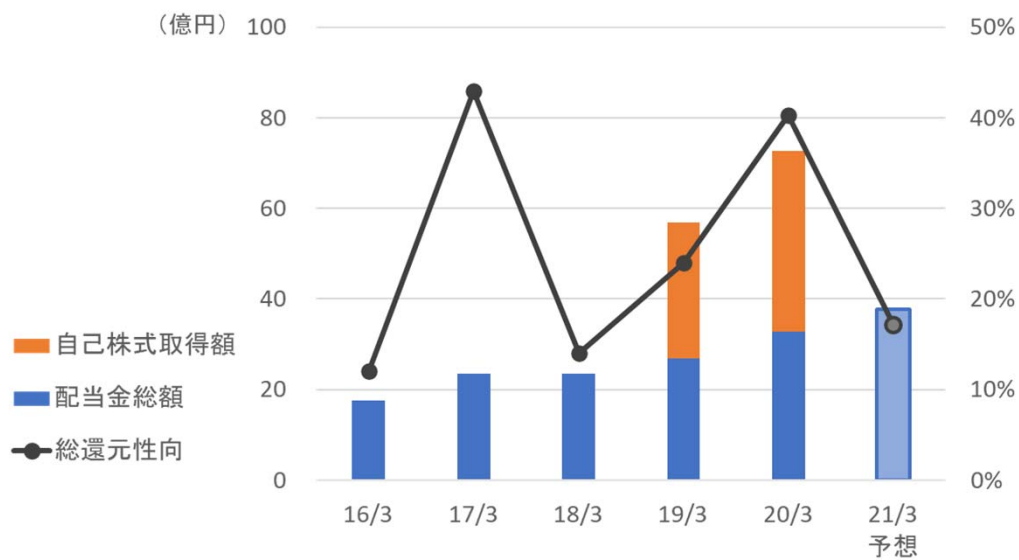
第3四半期の各製品の売上イメージは、第2四半期に対してコンデンサが2-6%減、複合デバイスは5-10%の減少を見込む。フェライト及び応用製品とその他は第2四半期並みで、全社合計では、2-6%減少すると想定。

2021年3月期 製品別売上高予想(前期比)

百万円	2020年3月期		2021年3月期 予想		増減	
コンデンサ	176,457	62.5%	188,500	66.4%	12,043	6.8%
フェライト及び応用製品	38,770	13.7%	38,000	13.4%	△770	△2.0%
複合デバイス	49,808	17.6%	42,500	15.0%	△7,308	△14.7%
その他	17,292	6.1%	15,000	5.3%	△2,292	△13.3%
合計	282,329	100.0%	284,000	100.0%	1,671	0.6%

前期比では、コンデンサが7%増、フェライト及び応用製品が2%減、第1四半期の調整が大きかった複合デバイスは15%減、その他は13%減で、全社では1%の増収となる見込み。

株主還元



1株当たり年間配当金(円)	15	20	20	21	26	30
1株当たり当期純利益(円)	125.27	46.08	138.80	189.93	143.04	175.27

安定的な総還元性向30%の実現を目指す

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

19

今期の配当予想は変更なし。
 総還元性向30%を安定的に実現することを目標に
 株主の皆様へ利益を還元していきたい。

補足資料

連結業績推移(四半期)

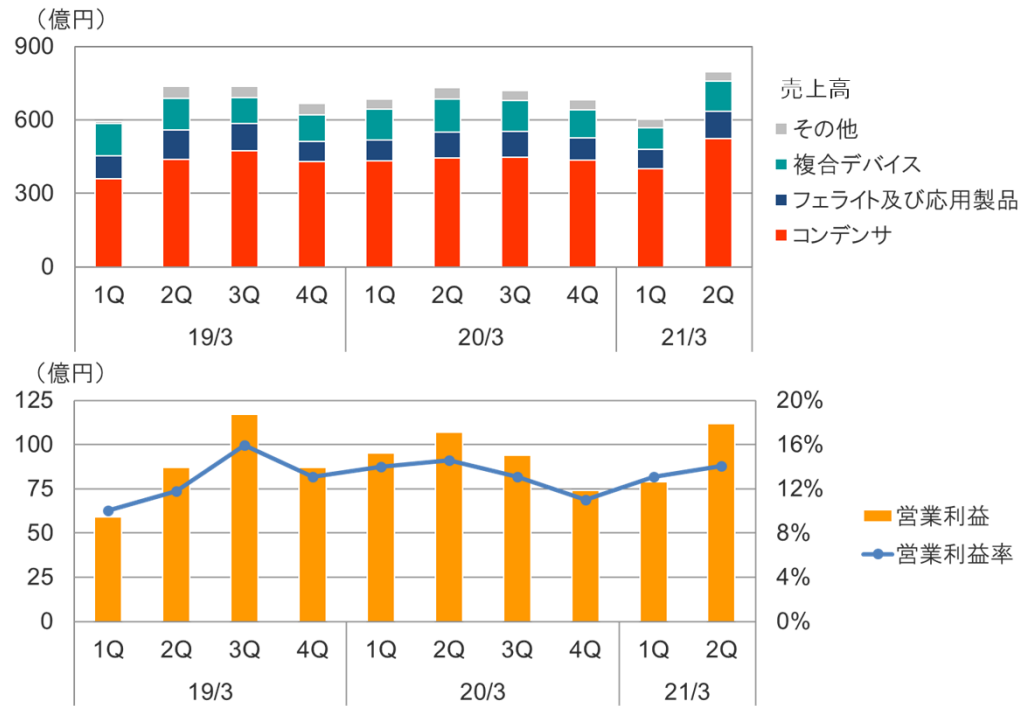
百万円	2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	59,576	73,989	73,963	66,820	68,635	73,272	72,187	68,233	60,493	79,728
コンデンサ	36,184	43,984	47,362	43,101	43,338	44,473	44,907	43,738	40,075	52,596
フェライト 及び応用製品	9,228	11,926	11,209	8,231	8,633	10,742	10,303	9,090	7,928	10,903
複合デバイス	13,208	13,160	10,783	10,778	12,523	13,436	12,621	11,226	9,075	12,330
その他	954	4,918	4,607	4,708	4,139	4,620	4,354	4,178	3,413	3,899
営業利益	5,981	8,722	11,789	8,744	9,595	10,703	9,446	7,431	7,923	11,203
経常利益	6,896	8,489	11,403	7,562	8,846	10,330	9,152	6,835	7,371	10,812
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,645	5,334	9,069	3,638	7,151	8,180	4,666	△1,975	4,541	6,900
対米ドル 期中平均レート	107.76円	110.84円	112.71円	110.64円	110.95円	107.58円	108.17円	109.54円	107.61円	106.82円

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

21

連結業績推移(四半期)

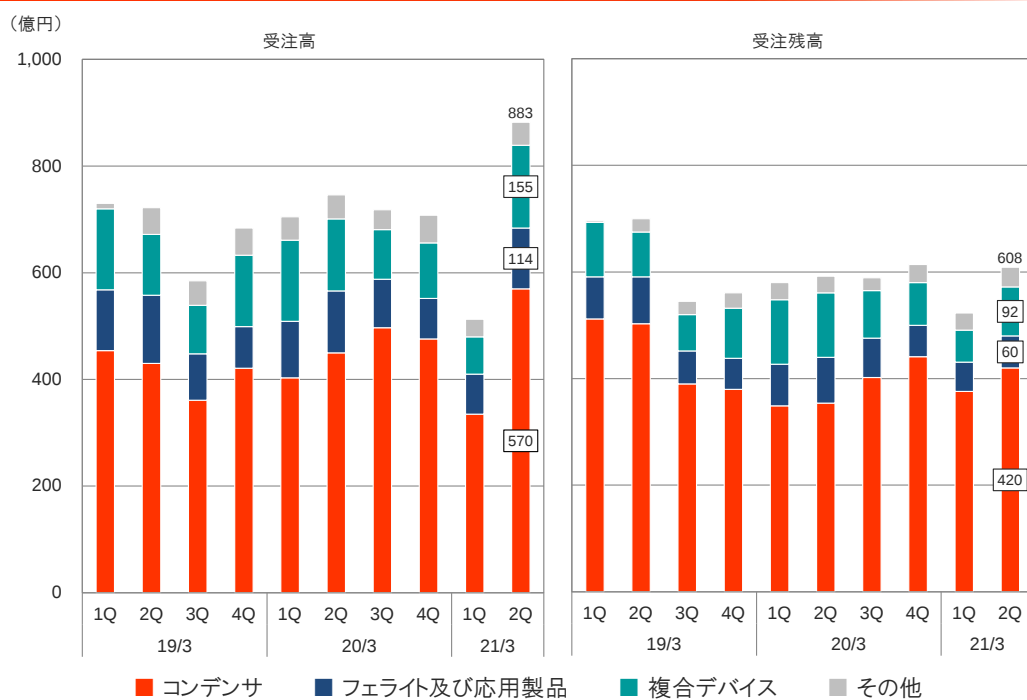


©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

22

受注高・受注残高推移(四半期)



©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

当資料に記載されている、当社（太陽誘電株式会社、および当社グループ）に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN

©TAIYO YUDEN 2017